

特別企画：2023年春休みシーズン「テーマパーク」価格調査

テーマパーク、4割でチケット値上げ 「電気代の高騰」が主な要因

～ 水族館・動物園では餌代上昇も経営圧迫 ～

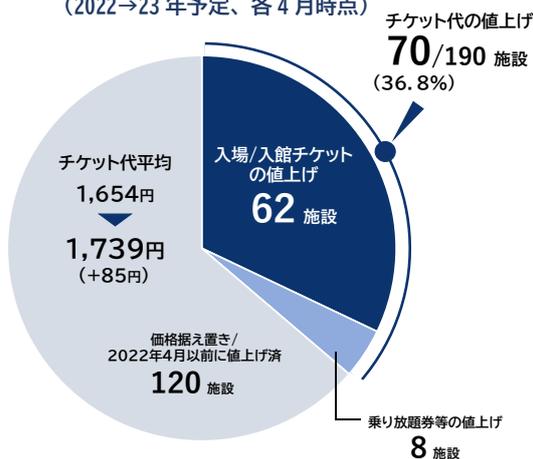
電気代のさらなる上昇懸念 再度値上げに踏み切る施設が増える可能性も

お出かけ情報サイト「いこーよ」を運営するアクトインディ（東京）が、自社アプリユーザーを対象に行ったアンケート調査によると、日用品や食品の値上がりによって約8割がお出かけに「影響がある」と回答した。有料施設の利用回数や、施設内の食事代などを減らすなど節約志向がみられ、チケット代の値上げがテーマパークの集客に一定の影響を及ぼす可能性がある。

他方、コロナ禍で臨時休館や集客制限などを余儀なくされたテーマパーク側では、収益力が弱まっていたなかでのコスト増が大きな重荷となっており、「値上げに踏み切らざるを得ない」施設が多くみられた。各施設とも、来館者数を増やすことで収入を上げるなど運営努力を続けているものの、今春から電気代がさらに引き上げられる予定などコスト増を吸収できる余力が限られており、チケット代を値上げするべきか再検討を迫られる可能性がある。

テーマパークの値上げ動向

(2022→23年予定、各4月時点)



テーマパークのチケット価格平均は **約85円** アップ

チケット価格値上げの背景



[注]全国の主なテーマパーク（遊園地・動物園・水族館）190施設における入場チケットの価格動向について調査を行った。
 入場料＝施設へ入場するために必須となるチケット代（1Dayパス等の付属を含む）

株式会社帝国データバンク 情報統括部長 かみにし ともひろ 上西 伴浩

【問い合わせ先】 いじま だいすけ 飯島 大介 03-5919-9343 (直通) daisuke.iijima@mail.tdb.co.jp

情報統括部：tdb_jyoho@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

23年春休み、テーマパークの4割がチケット値上げ 電気代、餌代上昇が主な要因に

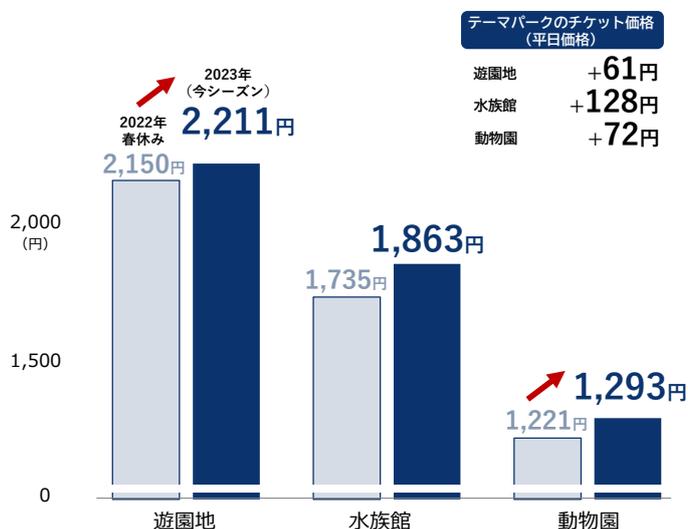
人件費や電気代、各種物価の高騰を受け、テーマパークで値上げが相次いでいる。全国の主要な遊園地や水族館、動物園など計190のテーマパークにおける、2022-23年4月時点の入場（入館）チケットの販売価格を調査した結果、約4割の70施設で値上げが判明した。このうち、入場チケットの値上げが62施設、入場料を据え置いたものの、別途購入が必要な乗り放題パスなどを値上げした施設が8施設だった。チケットの値上げは見送ったものの、駐車場代や場内でのフード・ドリンクサービスを値上げした施設も複数見られた。

背景には、エネルギーや機械部品価格といった施設管理コストの上昇に加え、動物園や水族館では高騰する餌代に対応するため価格を引き上げたケースが多くみられた。価格改定の理由が判明した38施設のうち、最も多かった要因は「光熱費の上昇」で27施設に上り、値上げ理由の7割を占めた。特に大規模な水族館、ジェットコースターなど遊具の稼働が多い遊園地などでは電気代の上昇で光熱費が前年から最大で1.5~3倍近くに上る施設もあるなど運営への影響が大きく、値上げに踏み切らざるを得なかった施設が多くみられた。次いで多いのが「餌代・原材料の高騰」

(19施設)、「物価高騰・その他」(12施設)だった。水族館では餌となる魚代、動物園では燃油代に加えて輸入肉類、乾草や固形飼料のペレット類など動物の餌代上昇などが価格改定の理由にあげられた。

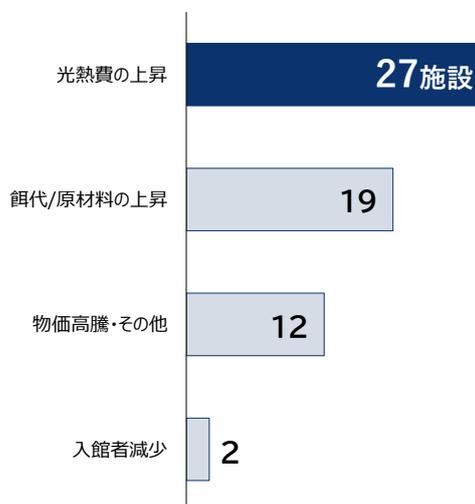
この結果、23年4月時点におけるテーマパーク入場チケットの平均価格(平日価格換算)は1739円となった。前年(1654円)に比べ5%・85円の上昇となる。ただし、分野別ではチケット価格帯・値上げ幅に差がみられた。平均チケット価格が最も高額だったのは遊園地で、2023年は2211円、前年から61円上昇した。一方、最も価格の上昇幅が大きかったのは水族館で、22年比で128円上昇の1863円だった。動物園は平均価格が1293円、前年比72円の上昇にとどまり、遊園地や水族館に比べて低水準にとどまる。

施設別 平均チケット価格 (平日価格換算)



©TEIKOKU DATABANK, LTD.

値上げ要因 (重複を含む)



[注] 価格改定の理由が判明した38施設が対象